

## 年収による金融機関への選好の違い

Differences in Preferences to Banks of Different Income

01009690 立教大学 岡太 彬訓 OKADA Akinori

02004480 立教大学 朝日 弓未 ASAHI Yumi

立教大学 大川 英恵 OKAWA Hamae

### 1 はじめに

金融機関に対する認識や利用の違いを年収階層別に明らかにし、認識や利用の違いをもとにして、金融機関間の非類似度を求める。それぞれの金融機関に対する認識や利用の違いにもとづく非類似関係を、具体的な金融機関への選好と結びつけた形で明らかにする。これにより、年収区分により金融機関に対する認識や利用がどのように変化しているのか、また、金融機関に対する選好、金融機関の利用状況、金融商品の購入などが、どのように変化しているのかを明らかにする。

### 2 データ

分析に使用したデータは、1994年に実施された「日常生活と金融についてのアンケート」を通じて収集されたものである。回答者数は958名である。本報告ではこの中から、具体的な金融機関に対する印象に関する回答とそれらの利用状況に関する回答を主として分析に用いることにした。

### 3 分析方法

「日常生活と金融についてのアンケート」の回答者のフェイスシートを用いて、年収を以下の8区分：(1) 200万円未満、(2) 200万円-400万円未満、(3) 400万円-600万円未満、(4) 600万円-800万円未満、(5) 800万円-1000万円未満、(6) 1,000万円-1,500万円未満、(7) 1,500万円-2,000万円未満、(8) 2,000万円以上、に分類した。

金融機関に対する印象をはじめとして、金融機関の利用状況や金融商品の購入などの具体的行動は、年収により大きくことなっているのではないかと考えられること、また、各金融機関が、顧客に対する働きかけや、顧客を獲得しようとする場合の考え方や行動においても、年収別に顧客をとらえることは有効であろうと考えられる。

年収区分毎に、都市銀行、地方銀行、信用金庫、信託銀行、外資系銀行、生命保険、証券会社からなる16の金融機関

(1) 郵便局

(2) 第一勧銀、(3) さくら銀行、(4) 富士銀行、(5) 住友銀行、(6) 三和銀行、(7) あさひ銀行、(8) 三菱銀行

(9) 横浜銀行、(10) 千葉銀行

(11) 城南信用金庫

(12) 三菱信託銀行、(13) 住友信託銀行

(14) シティーバンク

(15) 日本生命

(16) 野村證券

の間の非類似度を金融機関に対する印象にもとづいて求めた。16の金融機関の間非類似度が、8つの各年収区分について得られるため、非類似度は $16 \times 16 \times 8$ の2相3元非類似度データとなる。

この2相3元非類似度データを個人差多次元尺度構成法 (INDSCAL) (Arabie, Carroll, & DeSarbo, 1987; Carroll & Chang, 1970)を用いて分析し、16の金融機関の間の非類似度関係を表現する布置 (共通対象布置) を求めた。この共通対象布置の中に、金融機関の利用状況を選好度の写像分析 (PREFMAP) (Carroll, 1972; Meulman, Heiser, & Carroll, 1987) を用いて理想ベクトルあるいは理想点として表現した。

#### 4 結果とまとめ

2次元の結果を解として選んだ。共通対象布置の2つの次元は、金融機関の種類 (都市銀行, 地方銀行, 信用金庫, 信託銀行, 外資系銀行, 生命保険, 証券会社) および店舗数あるいは信頼感に対応していた。金融機関に対する印象の年収による差異は、この2つの特性が大きな効果をもっているのではないかと考えられる。INDSCALで得られた結果の詳細, および, PREFMAPで得られた結果の詳細については、発表の際に述べる

本報告では、年収区分にもとづいて分析を行った。年収以外に所有する (金融) 資産や金融商品に関する知識, あるいは, 家族構成や子供の成長過程などの差異にもとづいた, あるいは, 年収とこれらを組み合わせた場合の, 金融機関への選好の違いについても分析することが望まれる。また, 外部分析を用いて (岡太・丸茂, 1993) 金融機関の利用状況などを表現することも考えられる。

最後になってしまったが、貴重なデータを研究部会にご提供頂いたNTTデータの中川慶一郎氏に感謝の意を表す。

#### 参考文献

Arabie, P., Carroll, J. D., & DeSarbo, W. S. (1987). *Three-way scaling and clustering*. Newbury Park, CA: Sage.

岡太彬訓・今泉忠 (共訳) (1990). 3元データの分析—多次元尺度構成法とクラスター分析法—. 共立出版.

Carroll, J. D. (1972). Individual differences and multidimensional scaling. In R. N. Shepard, A. K. Romney, & S. B. Nerlove (Eds.), *Multidimensional scaling: Theory and applications in the behavioral sciences Vol. 1 Theory* (pp. 105-155). New York, NY: Seminar Press.

Carroll, J. D., & Chang, J. J. (1970). Analysis of individual differences in multidimensional scaling. *Psychometrika*, 35, 283-319.

Meulman, J., Heiser, W., & Carroll, J. D. (1987). *How to use PREFMAP3*. Unpublished manuscript, AT & T Bell Laboratories (Room 2F-128A), Murry Hill, NJ.

岡太彬訓・丸茂淳子 (1993). 集団間と集団内の差異を明らかにするMDPREFの応用方法. *理論と方法*, 8, 127-141.